

泉大津市社会教育委員会議

■令和6年度第2回会議の議事概要

日 時：令和6年10月1日（火）午前10時～11時40分
場 所：泉大津市役所 3階 大会議室
出 席：岡崎委員、木野委員、祐仙委員、井上委員、杉山委員、楠本委員
公開の有無：公開
傍 聴 者：なし

議 題

1. 池上曾根弥生学習館の指定管理について
2. 第2次（期）泉大津市教育振興基本計画（素案）について

報 告

- ① まちなかアートフェス 2024 について
- ② 2024 いずみおおつスケジュールフェスティバルについて
- ③ 近畿地区社会教育研究大会について

議事概要

議題

1. 池上曾根弥生学習館の指定管理について

《議事進行》

- ・事務局より説明。

《主な意見等の内容》

井上委員：答申案について、異議はない。この事業において、もう少し泉大津市のなかで学習館の存在意義を高め、市の唯一の博物館類似施設として打ち出せればと感じている。立地が市の中心から離れていることから、利用が難しい点も理解するが、泉大津市として学習館の有効利用をもっと図っていただきたい。指定管理者の選定は、プロポーザルによる選定という形になるかと思うが、よい業者が手を挙げるかどうかなど実際進めていかないと、うまくいくかどうかわからない部分が不安要素である。

杉山委員：付帯意見については賛同する。この内容で進めていただきたい。自治体をまたいで施設を有効利用し、メリットを探ることが重要だと感じる。事業のモニタリングなどを行い、継続的な指導助言を行い、指定管理者との協議調整を重ね、具体化していく必要がある。結果として泉大津市として市民にどのようなメリットを確保できるか、様書に沿った運営をしているかという観点だけでなく、新たな価値を生むことも社会教育行

政のミッションと考える。

楠本委員：手を挙げる業者がいなかった場合や不調になったときの対応について、事前に検討をお願いしたい。

岡崎議長：それでは社会教育委員会として、この内容で答申してもよろしいか。

委 員：異議なし

岡崎議長：事務局は、この内容で教育委員会に提出するように。

事務局：答申は、10月30日に開催される教育委員会議にて提出させていただく。

2. 第2次（期）泉大津市教育振興基本計画（素案）について

《議事進行》

- ・事務局より第2次（期）泉大津市教育振興基本計画（素案）について説明。

《主な意見等の内容》

岡崎議長：社会教育の観点から特に目標4の施策1と2についての意見をいただくことが本委員会の役割であると考えます。

木野委員：社会体育という視点での意見であるが、地域に信頼される総合型スポーツクラブを作る必要があると感じる。法的、社会的に整備し地域の課題を解決するクラブ活動が重要である。また、校庭の一般開放などの体験・学びの機会の充実も必要である。

杉山委員：目標4の施策2については、社会教育に関わる幅広い内容が含まれているように見える。もう少し具体的なキーワードが散りばめられていると、社会教育に関わる方々が自分の位置を見つけやすいのではないかと思う。泉大津の社会教育を支えてくださっている方々やリードしていただいている方々の顔を浮かべたときに、それぞれこの辺で引っかかると感じられるキーワードが、散りばめられているか。

事務局：具体的な取り組みとして、各部署が4年間の取り組みを厳選し、具体的な内容をSNSのnoteで発信する予定。市民の意見を多く取り入れるため、パブリックコメントも実施予定である。

岡崎議長：泉大津市の教育にかかわっている人びとの想いが、この計画のこの部分にかかわっているとわかるような構造になっているといいのではという意見をいただいた。

この計画は完成したものではなく、ワークショップなども行いながら進めていくとのことである。説明にはなかったが行政計画における手続きを踏まえた上で今後さらにブラッシュアップされ、完成に近づいていくと伺っている。そうですね？

事務局：おっしゃるとおり、ワークショップは既に実施しており、中学生がファシリテート役を担い小学生と意見を交わす形式で行った。また、関係者に対するアンケートも実施しており、行政計画における手続きは行っていると考えている。

岡崎議長：ちなみにパブコメは終わっているのか。

事務局：パブコメはこれから実施していく予定。

祐仙委員：策定時点の進捗度を星マーク（★）で表しているが、今後、進捗があった場合、どこでこの星マーク（★）の数を公表するのか。

事務局：SNSのnote(ノート)を活用し、具体的な取り組みを発信していく予定である。

杉山委員：目標4に関して、コンテンツとしても幅が広い。現在、施策が2つだけであるが、もう1つ増やしてもいいのではないか。泉大津市の社会教育は特徴がある。たとえば「まちなかアートフェス」は、市の特性を十分にふまえた事業である。図書館も先進的な取り組みを行っているが、「まちぐるみ図書館」という活動を展開しようとしている。1つ1つがユニークで、それぞれに関わっている方がおられると思うので、僕の活動はこの目標のこの施策に一致するんだなと自分事として受けとめられるように、ここに出していけばよいのではないか。

岡崎議長：社会教育委員会としては、是非ともそういうところには配慮していただきたい。

ページ数の多い計画を作っても、実際にそれが多くの人が手に取れるような場所に置くことも難しいし皆がダウンロードするとも思えない。市民に最も近いところにあるはずの計画であるにもかかわらず、結果ほとんど見てもらえていないということはよくあることである。そういう意味では、A3サイズの両面でおさめることは賛成である。けれども、1枚でおさめることのデメリットである情報量が少ないということについては、ケアしなければいけないのではないか。それを担保するのがこのnoteであるということであるが基本的には民間企業のプラットフォームであるのでということで、果たしてそれに対して市民が利用しやすいものなのかの検討が必要ではないか。手に取れる形で提供する方法も考慮すべき。また、計画全体を包含する指標も必要ではないか。

井上委員：この計画の目指す姿は“志を持って自立する”ということであると説明があったが、大切なことであると感じる。現在の若者は、自身が何をしてもらうかという主張はできるが、自分が地域に何ができるかということと言える人間が少ない。自分たちの地域という意識自体がとても希薄な人間がいっぱい出てきている。受け身な人間ではなく、自立し、自分がどう関わるのかを考える人間を育てるような計画にしていきたい。

報告

① まちなかアートフェス2024について

《議事進行》

- ・事務局より報告。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

② スポーツフェスティバル2024について

《議事進行》

- ・事務局より説明。

《主な意見等の内容》

杉山委員：まちなかアートフェス、スポーツフェスティバルともに、主催が実行委員会であるがどのくらいの人数の市民がかかわっているのか。また準備期間はどのくらいか。

事務局：まちなかアートフェスの実行委員会は30名ほどである。準備期間については、月1回の会議を、年間通して実施しているが、さらにLINEのオープンチャット機能を活用し、会議の場以外でも意見交換ができる仕組みづくりを行っている。

事務局：スポーツフェスティバルは70名ほどの委員に関わっていただいている。準備期間については、7月ごろから準備をしている。

木野委員：スポーツフェスティバルについては私も参加している。この実行委員会組織はほとんどスポーツ協会に所属する団体入っている。今年度からはスポーツ協会に所属する団体が主体となって、自分たちが普段行っている種目を周知することにした。こうすることで自分たちの競技の底辺拡大にもなる。

③ 近畿地区社会教育研究大会について

《議事進行》

- ・事務局より社会教育事業の概要について説明。

《主な意見等の内容》

楠本委員：太地町の事例報告を聞き、小規模な自治体であるが、町全体で地域活動を行っており、地域の力が素晴らしいと感じた。

井上委員：祇園祭に参加している鷹山保存会は地域の方で196年ぶりに山鉾を復活させた。地域における人材が、これほど重要なのか痛感させられた事例であった。太地町の事例報告では、地域全体で子供たちを育てる取り組みが行われているとのことで、町全体が一丸となっている点が印象的であった。

終了 11:40